

(対象事業：地域連携強化事業、地域文化資源整備活用事業、ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：北海道開拓期の再現映像の作成と公開授業

事業者名：財団法人 北海道開拓の村

住所：北海道札幌市厚別区厚別町小野幌50-1

TEL：011-898-2692

FAX：011-898-2694

HPアドレス：<http://www.kaitaku.or.jp>



連携事業者名：北海道教育大学、北海道開拓記念館、
北海道社会科教育連盟

会場：会議・撮影地 北海道開拓の村

公開授業会場：札幌市立厚別通小学校

事業期間：平成21年7月1日 ～ 平成22年2月28日

1. 館の使命と本事業の関係

北海道の今日の礎は、先人達が厳しい自然と闘いながら築き上げてきたものである。この郷土を更に豊かな地域社会へと発展させ、次代へ引き継ぐためには、先人の苦勞に想いをよせ、当時の歴史に学ぶところがきわめて多い。

このため、北海道における開拓課程の建造物及び歴史資料を調査し、保管するとともに風俗・生活様式等も調査し、広く一般に紹介しようとするものである。北海道開拓の村は、この開拓の歴史を体験的に学ぶ施設である。

本事業の目的・内容である教育的な観点を含めた北海道開拓期の生活再現映像を作成することで、今後の歴史学習や観光の場面における補助教材として歴史・生活・文化の伝承に寄与し、北海道内の北海道開拓を取り扱う博物館施設の利用促進を目指すことは当館の使命そのものであり、北海道立の施設として自館のみならず北海道内全域での活用及び効果を見込むことができる。

2. 企画内容

①事業目的

近年、歴史や郷土教育の重要性が再認識され、教育基本法や学校教育における学習指導要領等にも反映されているが、明治以降の急速な生活環境の変化により、個人の知識や経験による教育及び観光の場面において歴史的事象を正確に伝えることが年々困難な状況となっている。特に当施設を利用する学校からは、当施設の対象とする時代の暮らしぶりがわかる映像教材を望む声が聞かれる状況にある。

そこで、北海道開拓政策が進められた当時の建造物を移築復元・再現した当施設と、当館と連携館の調査研究成果ならびに収蔵資料を活用し、教育的な観点を含めた北海道開拓期の生活再現映像を作成・頒布することで、今後の歴史学習や観光の場面における補助教材として歴史・生活・文化の伝承に寄与し、北海道内の北海道開拓を取り扱う博物館施設の利用促進を目指す。

②事業概要

事業に当たっては、明治大正期の生活史、産業史、文化史等を専門とし、北海道開拓の村の展示、資料に造詣の深い学芸員、学校教育における豊富な実践研究への取り組みを続けている北海道社会科教育連盟所属の現職教員、在学中より実践的な製作活動に取り組み、在学生、卒業生ともに映像制作の世界で高い評価を受けている北海道教育大学芸術課程美術コース映像研究室が、それぞれの専門性を駆使し、提供者・製作者・利用者の各視点を交えて製作に取り組むことで、信頼性と利用価値の高い映像教材の製作を目指した。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

| 実施時期 | 計画事項 | | | 摘 要 |
|-----------|------------|--------|-------------|--------------------------------------|
| | ① 検討・編集会議 | ② 撮影 | ③ 映像作成 | |
| 7 月 9 日 | 再現映像製作検討会議 | | | 出席者 7 名 |
| 7 月 16 日 | 再現映像製作検討会議 | | | 出席者 7 名 |
| 8 月 3 日 | 再現映像製作検討会議 | | | 出席者 8 名 |
| 9 月 7 日 | | 再現映像撮影 | 編集作業開始 ↓ | 伊藤准教授 他スタッフ 5 名 |
| 11 月 11 日 | | 再現映像撮影 | | 伊藤准教授 他スタッフ 4 名 |
| 12 月 24 日 | | 再現映像撮影 | | 伊藤准教授 他スタッフ 4 名 |
| 1 月 15 日 | | 再現映像撮影 | ↓ | 伊藤准教授 他スタッフ 5 名 |
| 1 月 21 日 | 試写会・授業検討会 | | | 出席者 3 名 |
| 1 月 29 日 | | | 編集作業終了 | |
| 2 月 4 日 | 授業検討会 | | ↓ | 出席者 5 名 |
| 2 月 12 日 | 授業検討会 | | | 出席者 3 名 |
| 2 月 16 日 | | | 教材 DVD 完成 | 制作数 2,800 枚 |
| 2 月 17 日 | 公開授業 | | | 出席者 5 名 (助言者 3 名含む) 一般参加者 30 名 |
| 2 月 25 日 | DVD 発送完了 | | | |

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ 120 人

内 訳： 上記検討会議出席者・再現映像撮影スタッフ・授業検討会出席者・公開授業出席者及び参加者（86 名）に撮影協力者（出演者等 34 名）の合計

(3) 事業により作成した印刷物等

北海道開拓期の再現映像 DVD「北の開拓物語」 2,800 本

利用案内チラシ 2,800 部

| 配布先 | 所在地 | 部数 | 発送件数 | 備考 |
|----------|--------|---------|---------|-----------|
| 札幌市内小中学校 | 札幌市内各地 | 320 部 | 0 件 | 市役所より一斉配送 |
| 北海道内小中学校 | 北海道内各地 | 1,651 部 | 1,651 件 | 郵送 |
| 北海道内博物館 | 北海道内各地 | 124 部 | 124 件 | 郵送 |
| 国内博物館 | 日本各地 | 206 部 | 206 件 | 郵送 |
| 北海道教育大学 | 札幌市 | 札幌 20 部 | 3 件 | 手持ち |

| | | | | |
|--------------------|---------------------------|--|---------|-----------------------|
| | 岩見沢市 函館市 旭川市 釧路市 | 岩見沢 20 部 函館 1 部 旭川 1 部 釧路 1 部 | | 手持ち 郵送 郵送 郵送 |
| 北海道社会科教育連盟 | 札幌市 | 200 部 | 0 件 | 手持ち |
| 公開授業参加者 | 札幌市 | 50 部 | 0 件 | 当日配布 |
| 開拓の村 使用及び貸出、保存分 | | 206 部 | | 手元保管 |
| 計 | | 2,800 部 | 1,984 件 | |

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事

「北の開拓物語」制作 北海道開拓の村が教材用 DVD

北海道開拓の村はこのほど、教材用 DVD「北の開拓物語―北海道開拓期の再現映像」を制作した。二十一年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業の一環として制作。北海道開拓記念館、道教育大学映像研究会、道社会科教育連盟の協力で開拓当時の生活風景を様々な視点から再現して映像収録した。制作した DVD は道内全小・中学校へ各一枚配布する。

北海道開拓の村は本年度文化庁の美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業に参加。北海道開拓記念館、道教育大学映像研究会、道社会科教育連盟と協力して、開拓の村施設を地域や学校現場で連携・有効活用する方法を模索している。

取組の中で「現代の小学生たちの両親や祖母は開拓期を知らない世代」である点に着目、開拓の村施設の見学や講話等で学習するほか、補助資料として、当時の生活風景を再現した映像 DVD の制作に着手した。

再現映像は、昨年 7 月から約半年をかけて制作、このほど、「北の開拓物語―北海道開拓期の再現映像」として完成した。DVD では「囲炉裏」「選択」「縄ない」の様子を再現映像として収録しているほか、「火鉢」「かんじき」「わらぐつ」「つば釜」などの映像資料も収録している。

北海道開拓の村では「学習の導入や当時の生活を検証する資料教材として活用を期待している」とコメント。また、「道内には開拓の村を訪れる機会がない子どもたちもいる。今回の DVD が開拓当時の様子を知ることの一助になれば」と話している。

北海道通信社 平成 22 年 3 月 19 日（金） 第 9221 号

開拓の歴史学ぼう 再現映像活用し札幌市厚別通小 当時の生活の様子や産業等 社会科公開

札幌市立厚別通小学校（秋山晴人校長）は 17 日、北海道開拓期の再現映像を活用した公開授業を同校で実施した。文化庁の美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業の一環。関本勝幸教諭が四年一組で社会科「札幌市の人たちの昔の暮らし」の授業を公開した。授業では北海道開拓の村が主体となり制作した「北海道開拓期の再現映像」DVD を使用。児童たちは、当時の生活の様子を再現映像から読み取っていた。

美術館・博物館活動基盤整備支援事業は文化庁が本年度から着手。美術館や博物館等が地域や学校等で、より効果的に連携・活用できる方法を模索することが目的。札幌市内では北海道開拓の村が同事業を受託。北海道開拓記念館、道教育大学映像研究会、道社会科教育連盟と協力して、開拓

当時の生活や産業の姿を再現した DVD「北海道開拓期の再現映像」を作成した。

公開授業は同事業で制作した DVD を実際の教育現場で活用するモデルケースとして実施。北海道開拓の村からほど近く、毎年同施設を授業内で利用している厚別通小で行った。

授業は、関本教諭が担当する四年一組「昔のくらしとまちづくり」の単元で全六時間構成の三時間目「札幌の人たちの昔のくらし」を公開した。

関本教諭は、開拓時代の道具として囲炉裏を取り上げ、現在の生活で使用されている道具と比較。囲炉裏が現代のストーブやガスコンロ、明かりなどの役割を担っていたことを取り上げ、「一つの道具に様々な役割が集約されている」点に着目させるようアプローチした。つぎに「北海道開拓期の再現映像」DVD を使って、囲炉裏で生活している様子を鑑賞。児童たちは「うす暗い」「寒そう」と、当時の生活が不便であることを想像した感想が挙がった。関本教諭は、映像から囲炉裏の上に吊るした魚について「煙で燻すことで食べ物を長持ちさせることができた」と説明。また、「夏場は囲炉裏の煙で防虫効果もある」などと児童が気付かなかったポイントを取り上げ、「囲炉裏には昔の人の知恵が詰まっている」という共通理解を図っていた。

北海道通信社 平成 22 年 3 月 19 日（金） 第 9221 号

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

本事業は、北海道開拓期の再現映像を製作し教材として配布するものである。そのため、教育現場において利用して頂くことが最終目的であり、実際に授業や学習活動に使用されて本質的な効果が認められるものである。従って、現段階での効果測定は、限定的なものになる。

まず、映像の制作に関しては、当初の検討委員会より北海道開拓の村、北海道開拓記念館、北海道教育大学、北海道社会科教育連盟の 4 者が集まり、それぞれの考えや要望、意見を出し合い建設的な議論を展開してきた。このことは、児童生徒が学ぶ教材作製にむけた各々が主体的に取り組む協働であり、今回の授業にとどまらない連携の可能性を見出すことができた。また、撮影には博物館としての調査研究や学習用に収集した資料など、博物館活動の成果を駆使して実施し、改めて多様な資料収集・管理の在り方を考えるきっかけとなった。公開授業後の検討会において DVD を上映し意見を聴取したところ、授業での扱いやすさの点で好評であった半面、「内容が少し難しいように感じました」「小学生は画面の中に自分の姿をおいて考えることができるほうがよいと思う」といった内容の難しさを指摘する声があった。内容の難しさについては小学 6 年生から中・高校生を主対象として製作した本編についての意見であったため、中・高校生の利用についても情報収集に努めたい。小学 4 年生の授業内での例示を想定したコンテンツに関しては、効果的な活用ポイントが複数想定され、前例が少ないことから「実際に授業で活用し確かめたい」という感想があった。

次に、公開授業については、学校での活用に向けた情報を提供する上では、直接的にその用法を紹介できるということ、利用、改善に向けたさまざまな情報が集積できるという点で、公開授業の実施は意義あるものであった。特に、本事業に多方面から協力頂いた会場校の札幌市立厚別通小学校より、今後も積極的に連携を図りたい旨の協力姿勢を得るなど、継続的な地域連携へも繋がる事業となった。公開授業参加者には、協力いただいた北海道社会科教育連盟に属する教諭の他にも多数の教諭の参加が見受けられ、博物館が主催することで新たな交流の場を提供できたことも一つの成果であったと考える。新学習指導要領において学習で取り上げる事象の一例とされている「囲炉裏」を暖房だけでなく多様な役割を担う存在として扱ったこともあり、学習展開の見通しと社会科としての帰結点を確認する参加者が多かった。特に札幌市では平成 22 年度より大型ディスプレイが全教室に配備されることもあり、予想以上に実践を意識した観点で参加いただけたようである。これから実際に授業等に使用される中で確認される改善すべき点を集積し、今後、博物館の教育普及活動に活かしていくことが最大の課題である。